

取組目標	評価項目・目標数値	実績	考察及び改善策																		
<p>① 介護・支援を要しない高齢者の増加</p>	<p>75歳～85歳の高齢者のうち、要介護・要支援の認定を受けていない人の割合</p> <p>令和2（2020）年度：81.7%</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>令和5（2023）年度：82.5%</p>	<p>R4年度：81.7%</p> <p>R5年度：82.2%</p>	<p>令和5年度の介護・支援を要しない高齢者（対象：75歳以上85歳未満）の割合は、令和4年度（81.7%）から増加したものの、目標数値には達しなかった。</p> <table border="1" data-bbox="982 676 1904 819"> <tr> <td colspan="6">75歳～85歳の高齢者のうち、要介護・要支援の認定を受けていない人の割合</td> </tr> <tr> <td>年度</td> <td>R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>81.4%</td> <td>81.7%</td> <td>81.5%</td> <td>81.7%</td> <td>82.2%</td> </tr> </table> <p>シニアリーダーや通いの場の担い手について、高齢化等により、担い手・後継者不足が深刻化している。一方、2区（花見川・若葉）に加え、さらに2区（稲毛・美浜）に医療専門職を配置し、通いの場において、フレイルに関する健康教育や健康相談の実施とともに、健康診断結果から把握したフレイルの疑いがある後期高齢者に対して個別支援を実施した。</p> <p>今後は医療専門職による通いの場での健康教育及びフレイルの疑いがある高齢者への個別支援を全区で実施するとともに、リハビリテーションの視点による、身体機能及び生活機能の改善を図る取り組みを実施する。</p> <p>また、介護予防の啓発を強化し、住民主体の介護予防活動の促進を図る。</p>	75歳～85歳の高齢者のうち、要介護・要支援の認定を受けていない人の割合						年度	R1	R2	R3	R4	R5	割合	81.4%	81.7%	81.5%	81.7%	82.2%
75歳～85歳の高齢者のうち、要介護・要支援の認定を受けていない人の割合																					
年度	R1	R2	R3	R4	R5																
割合	81.4%	81.7%	81.5%	81.7%	82.2%																
<p>② 早期から介護予防の観点を持つことによる検証</p>	<p>低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合の増加の抑制（対象65歳以上）</p> <p>令和元（2019）年度：18.9%</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>令和5（2023）年度：22.0%</p>	<p>R4年度：20.1%</p> <p>R5年度：21.2%（暫定値）</p>	<p>令和5年度の低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合は21.2%（暫定値）で、令和5年度目標値の22.0%を下回っており、目標を達成した。</p> <p>（確定値は特定健診結果が確定する8月以降に算出）</p> <p>国保の特定健診を受診した65歳以上の高齢者のうち、低栄養が疑われる高齢者を把握し、あんしんケアセンターとの連携による個別支援を実施しているが、より専門性を持った効果的な支援を実施するため、令和6年度より管理栄養士による個別支援を実施する。また、引き続き、健診結果により、低栄養などの健康課題がある高齢者を抽出し、フレイル予防や介護予防事業の情報提供を行う。</p> <p>令和5年度は「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」を花見川区と若葉区、稲毛区、美浜区の4区で実施し、通いの場での健康教育とともに、通いの場で把握した低栄養などの健康課題がある高齢者に対する保健指導を行っており、令和6年度からは全区で実施する。</p>																		
<p>③ 介護住民防主体活動の通いの参加促進</p>	<p>住民運営による通いの場への参加人数</p> <p>令和元（2019）年度：20,999人</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>令和5（2023）年度：21,600人</p>	<p>R3年度：15,606人（851団体）</p> <p>R4年度：17,926人（827団体）</p> <p>R5年度：13,901人（902団体）（暫定値）</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の流行以降、通いの場の休止や、参加者の利用控えが続いていたが、5類移行後も担い手や後継者不足、参加者の高齢化等種々の問題により通いの場の資源数は減少傾向にある。</p> <p>一方で、団体より新規立ち上げ、再開、継続等の相談があんしんケアセンターや生活支援コーディネーターに寄せられているため、引き続き、関係機関と連携しながら活動支援に取り組んでいく。</p> <p>併せて、千葉市の生活支援サイト等で周知啓発を図り、利用促進を図っていく。</p>																		